東京ジャーミイ金曜日のホタバ

2005 年 7 月 8 日

社会生活における宗教の重要性

ムスリムの皆様。宗教(イスラーム)は、理性ある人間を現世および来世において幸せに導こうとする創造主から下されたシステムであります。宗教は人間に対して、人間の地位と存在の意味、どこから来てどこに行くのか、創造の目的は何かを説明します。宗教は、創造主への帰依と崇拝、他の創造物と好ましい関係のあり方を教えます。ここで述べる宗教は言うまでもなく普遍的な教えであるイスラームであります。偉大なるアッラーはクルアーンのアーリ･イムラーン章第 19 節および第 85 節において次のように語られます。「本当にアッラーの御許の教えは、イスラーム(主の意志に服従、帰依すること)である。」

「イスラーム以外の教えを追求する者は、決して受け入れられない。また来世においては、これらの者は失敗者の類である。」

ムスリムの皆様。宗教は、人々に協力関係を促し、美徳と社会正義の実現を可能にする最大の要因であります。宗教観とアッラーを畏れる気持ちは、人々に自己監視を定着させ、悪から遠ざけます。善行に向かわせます。偉大なるアッラーはアスル章において次のように語ります。「時間にかけて(誓う)。本当に人間は、喪失の中にいる。信仰して善行に勤しみ、互いに真理を勧めあい、また忍耐を勧めあう者たちの外は。」

ムスリムの皆様。現在の世の中に、いかなる便利さも、技術的な可能性もはかり知れないほど豊富ですが、これらだけで人々の安寧と幸せが実現されたわけではありません。ストレスのような現代病がその証明であります。この問題を解消しようと多大の努力がなされ対策がとられていますが期待された効果が得られていません。得られるはずもありません。なぜなら、治療方法が間違っています。今の世の中で広まってしまった薬物の使用、判断力を麻痺させるアルコールの消費、家族内での問題の多発、自殺、争いや戦争、過激テロ、性的迫害、不正、社会における不均衡などは、人々が宗教観から遠ざかってしまい、クルアーンの聖なるメッセージに耳を傾けなかったからであります。イスラームの目的は、科学と信仰で備えられた責任感のある個々人からなる社会の形成であります。

ムスリムの皆様。宗教は人々を悪行から離し、ストレスから開放します。宗教は怠け者であることを禁じ、働くことを命じます。偉大なるアッラーはカサス章第 77 節において次のように語ります。「アッラーがあなたに与えられたもので、来世の住まいを請い求め、この世におけるあなたの(務むべき)部分を忘れてはなりません。そしてアッラーがあなたに善いものを与えられているように、あなたも善行をなし、地上において悪事に励(は)んではなりません。本当にアッラーは悪事を行う者を御好みになりません。」

宗教は、恨みを持つこと、嫉妬(しっと)すること、敵視することなどを許しません。敵に対しても赦しと正義をもって接することを勧めます。酒、ギャンブルや姦通を禁じます。家庭内平和、社会の福祉を目指します。自殺を大きい罪と位置づけ、おそってくる被害に対して冷静さと我慢を勧めます。

宗教は、一人ぼっちとなってしまったときでも、どうしようもできないときでも唯一なる頼りとして偉大なるアッラーの存在を思い出させます。偉大なるアッラーは、アッラーを信じ、頼るところとする人々に次のように語っています。

「これらの信仰した者たちは、アッラーを唱念し、心の安らぎを得る。アッラーを唱念することにより、心の安らぎが得られないはずがないのである。」(ラアド章第 28 節)

「見なさい。アッラーの友には本当に恐れもなく、憂いもないであろう。かれらは信仰し、(アッラーを)畏れていた者たち。」(ユーヌス章第 62－63 節)